



## 大自然の中で

### すくすく育つ二俣っ子

二俣小学校

今回は、二俣小学校を紹介します。

二俣小学校は、明治6（1873）年に第3中学区第74番大森小学校として開校し、昭和26年に現在の校名に改称され、今年で136歳になる歴史のある学校です。

学校の近くには北上川と追波川が流れ、地域で一番高い上品山の頂上に牧場があるなど、自然に恵まれたとてもすばらしい環境にある学校です。

現在、児童数111人、7学級で、学区再編や近年の少子化などの影響もあり、ピーク時の約8割程度に減少しています。

市報一月号の「まちの話題」でも紹介しましたが、学区内の特性を生かした総合学習が積極的に行われています。鮭を題材とした学習では、保護者や関係機関の協力を得ながら、鮭の採卵から孵化・稚魚の飼育と放流を行います。卵をとった後の鮭はただ捨てるのではなく、その鮭で子ども達と保護者が一緒に調理しておいしい鮭飯



▲上品山登山

を近く追波川で浮かべてカヌーと一緒に乗って楽しんでりと、自然とのふれあいを重視した総合学習を行っています。



▲川下り

やあら汁を作り、いただきます。また、上品山登山での地域の観察、竹とペットボトルで筏を作っています。

校長先生は、「このような学習を通して一人でも多くの子ども達に自然に親しむ体験をたくさんさせてあげたい」と話していました。

また、最近はお校時の不審者対策として、地域の高齢者の方を中心になって「二俣子ども見守り隊」を組織し、子ども達の安全を見守っています。

このように、学校、保護者、地域が一体となって子ども達の安全と健全な成長を育んでいます。二俣っ子は、上品山の杉の木のようにすくすくと成長しています。

## にぎやか家族 23

広 渕



写真左から、夕姫ちゃん、彩姫ちゃん、龍司くん

《将来の夢》  
**本 田** リゅう **龍** し **司** くん (7歳) いちご屋さん  
夕 **夕** 姫 **姫** ちゃん (6歳) お花屋さん  
彩 **彩** 姫 **姫** ちゃん (3歳) お花屋さん

両親から

毎日がとてもにぎやかで、よくケンカもしますが、すぐ仲直りをします。健康で、明るく元気に育てほしいです。(母)  
 夢 (いちご屋さん、花屋さん…) に向かってがんばれ!! (父)

### 今月の表紙から

今月は、深谷のからし巻を紹介しました。からし巻は、大根をからしに漬け込み、棒状に切り、シソの葉で巻いたものです。

石巻圏域ではポピュラーですが、ほかの地域では、あまりお目にかかれない食品です。河南地区広渕の名産で、JAや個人の方が生産しています。つんとくる辛さがおいしく、ご飯の友や酒の肴に最適です。

今回は、JAいしのまき河南食品加工部会（広渕）で取材しました。ここでは、シソ・大根とも自分で栽培したものを使い、毎年10月から大根の漬け込みを開始し、11月から出荷を

始めるそうです。

20袋入りのケースを、1日に15から20ほど出荷しています。2月いっぱいまで出荷が続く、店頭在庫がなくなる3月まで楽しむことができます。



浅野 つる子さん



# サークル仲間

なかま ⑳

## 指先を使って脳の活性化

### 折り紙サークル

今回は、桃生地区の折り紙サークルの皆さんを紹介します。

折り紙サークルの発足は、今から4年前に開催された桃生地区文化祭において、ぜひ折り紙を教えてほしいとの要望から、始めたのがきっかけで設立しました。

現在、メンバーは8人で、主な活動としては、月に1度集まり今まで作った折り紙を繰り返し練習したり、新しい作品へ挑戦してみたりしています。毎年行われている桃生地区文化祭では、折り紙教室を開き、折り紙の楽しさを伝えながら参加者と一緒に作っています。



▲折り紙サークルの皆さん



▲新作折り紙を作成

その他の活動としては、長生大学や農協婦人部の方々への講習、別活動として行っている絵本の読み聞かせに来た子ども達へ折り紙をプレゼントしています。

一枚の紙から折り出せるさまざまな動物や、美しい花を作り出せる折り紙は日本に古くから伝わる文化で、たくさんの人々に親しまれ、趣味はもちろんのこと教育・リハビリテーション効果などさまざまな可能性をもっています。

# 長寿のひけつ



㉔

## 日課は、木刀の素振り50回！

阿部 宗光さん（大瓜井内） 93歳

今回は、毎日木刀の素振りをしている阿部宗光さんをご紹介します。



阿部さんは、大正3（1914）年、旧牡鹿郡稲井村に9人兄弟の4男として生まれました。奥さんは、6年前に病気で他界されましたが、現在は大瓜井内の自宅に息子さん夫婦、お孫さんと同居しています。

93歳という高齢ですが、今もなお現役でさまざまなゲートボールの大会に出場し優勝するなど、健康そのものです。

石工職人として86歳まで現役で勤めていた阿部さんは、17歳のとき、地区の消防団に入団しました。途中、太平洋戦争の兵役で石巻を離れましたが、昭和21年に帰還後は、分団

の後援会に入会し、地元の方々の生活を見守ってきました。また、地区の老人クラブで公園などの奉仕活動（雑草除去など）を行うときは、率先して参加したり、高齢者が中心だったゲートボールクラブを、若い世代の方も一緒にプレイできるように働きかけたりと、日ごろから「奉仕の心」と「地域の輪」を大切にしています。

テレビが普及していない時代には、地区の青年団で「井内演芸研究会」と称した劇団（仮）で、地元の方々に芝居やコントなどを披露していたこともあるそうです。

そんな阿部さんの長寿のひけつは、「ただ、「じつ」としてたら、身体がなまるから」と、木刀の素振りを50回、夕暮れ時に毎日行っていること、偏食せず規則正しい生活を送ることのようです。

地元の方々からの信望も厚い阿部さん。お体に気をつけてこれからも素振りがんばってください。